

令和4年度

一貫作業システムと下刈り回数の削減

岡山県新見市 三室国有林



コンテナ苗



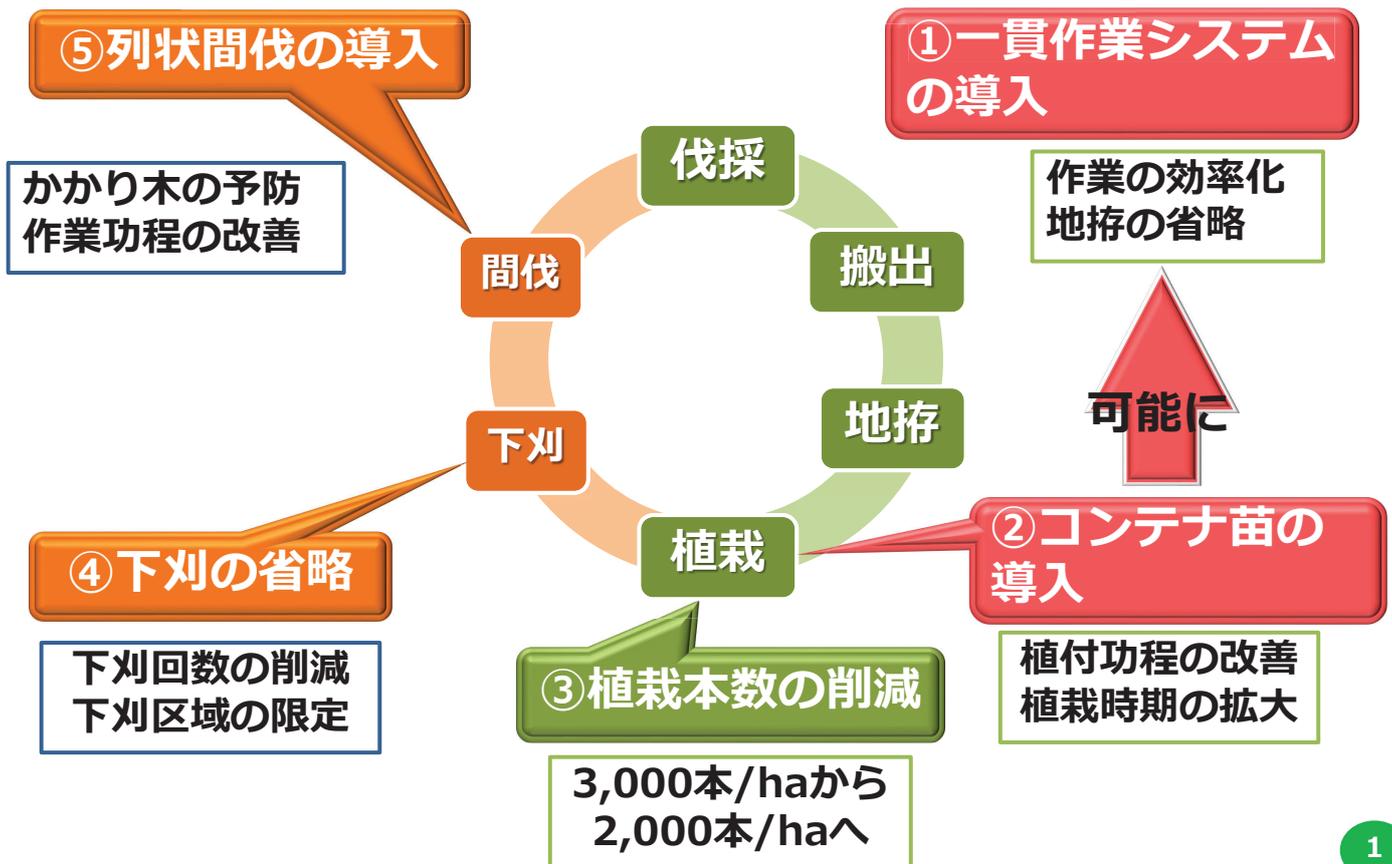
H25.7 伐採中の三室国有林

林野庁 近畿中国森林管理局
森林技術・支援センター

目次

- 近畿中国森林管理局の造林・育林
の低コスト化に向けた戦略 1

- 伐採・植付一貫作業下でのコンテナ
苗等の活着・生育実証 6



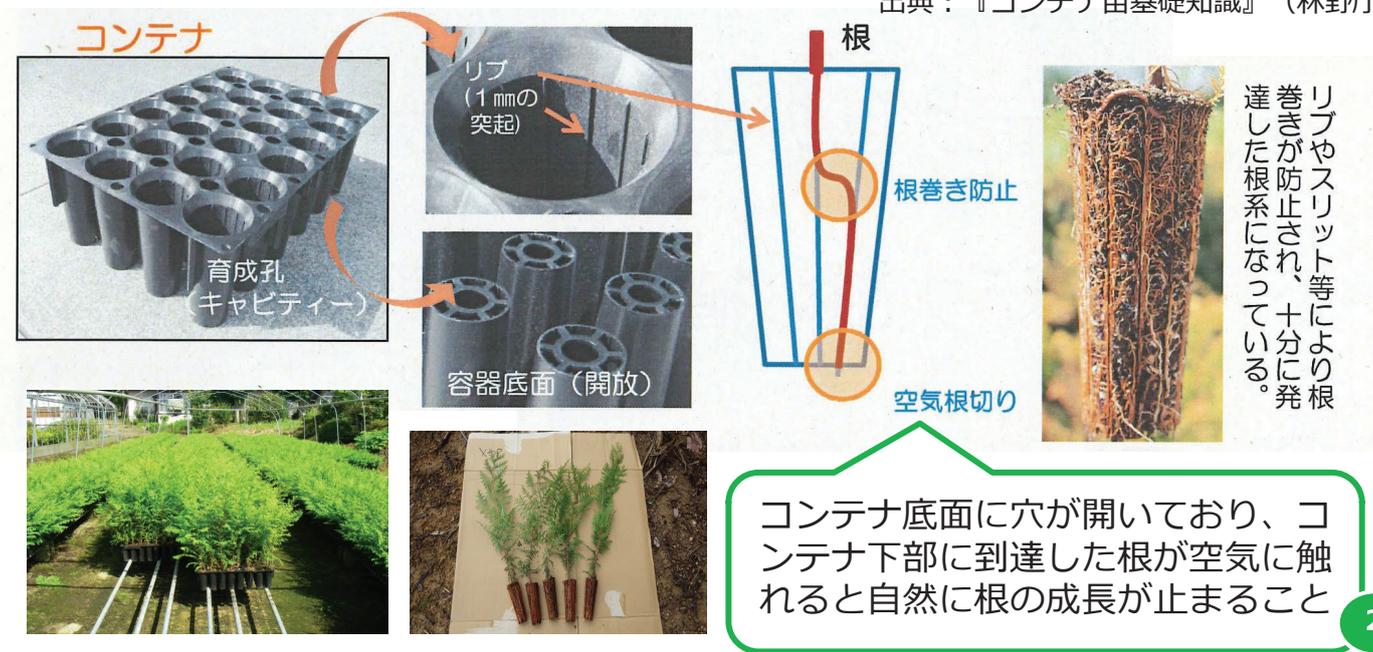
1

コンテナ苗と一貫作業システム

『コンテナ苗』とは

育成孔（キャビティ）の内側にリブ（縦筋状の突起）や細長いスリットを設けるなどにより、水平方向の根巻きを防止するとともに、容器の底面を開けることで垂直方向に空気根切りができる容器によって育成した、根鉢付きの苗のこと。

出典：『コンテナ苗基礎知識』（林野庁）



2

コンテナ苗のメリット・デメリット

コンテナ苗の植付手順



植付位置を決め、ディブル（専用器具）のペダルを踏込み植穴を掘る。



ディブルにより形成した植穴にコンテナ苗を差し込む。



植穴とコンテナ苗が密着する程度に踏固め、乾燥防止策として苗木根元に落葉等を寄せる

メリット

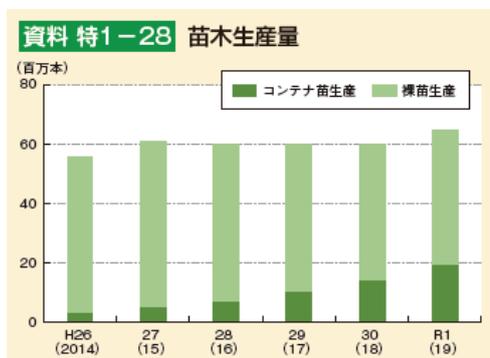
- ✓ 植付現場での保管等の扱いが容易。
- ✓ 専用の植付器具をうまく利用することで植付時間を短縮。
また、植付作業に熟練を要しない。
- ✓ 植付適期が広い（年間を通じて植栽可）。



- ・ 植付工程の効率化（条件が良い場合500本/日以上も）
- ・ 植付不良による枯損を予防
- ・ 伐採と造林の一貫作業が可能

デメリット

- ✓ 単価が高い（現状では裸苗の2倍）



3

伐採と造林の一貫作業システム

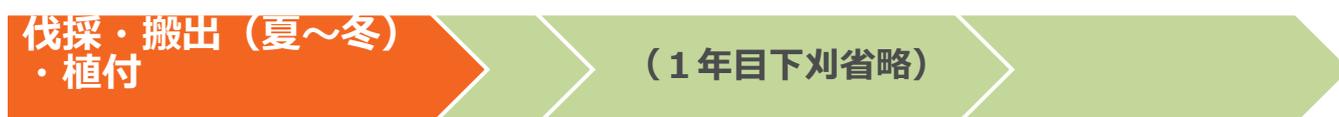
『一貫作業システム』の定義

伐採・搬出作業と並行又は連続して、伐採・搬出時に用いる林業機械を地拵又は苗木等の資材運搬に、若しくは集材用架線を苗木等の資材運搬に活用するとともに、伐採跡地において植生が繁茂しないうちに植栽を終わらせることで、一連の造林作業の効率化を図る伐採・造林の実施システムをいう。（平成30年3月29日 29林整整第977号林野庁森林整備課長通知）

従来作業の工程



一貫作業システムの工程



- ✓ **コンテナ苗**の採用により植付適期が広がり、伐採直後の植付が可能に。
- ✓ 車両系の場合、植付を考慮した**全木集材・グラップル**による**末木枝条の処理**により、地拵を省略。さらに、**フォワーダ**による**苗木・シカ防護柵の運搬**により、**植付にかかるコストを大幅に削減**。
- ✓ 伐採から間を置かず植えるため、雑草が繁茂するまでの期間が長くなり、**下刈回数**の削減が可能。

4

一貫作業システムの流れ

一貫作業システムの流れ



チェーンソーにより伐倒



グラップルにより枝付きのまま木寄せ



プロセッサにより枝払い・造材



グラップルにより林地を整理



伐採が終了し安全が確認できる箇所から専用器具により植付



フォワーダによりコンテナ苗等を運搬

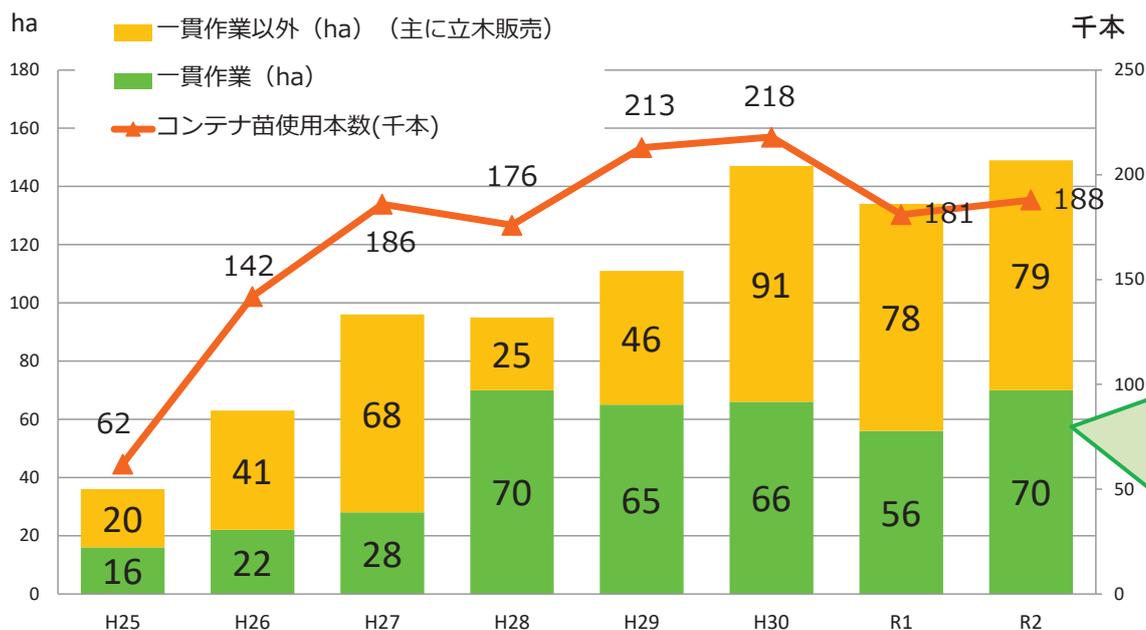


フォワーダにより搬出（土場へ）

5

コンテナ苗植栽・一貫作業の実績

近畿中国森林管理局における造林面積等の推移



素材生産請負事業地のほぼ100%

※素材生産とは、国有林に生育する立木（樹木）を伐採して、素材（丸太）に加工し、決められた場所に運搬・集積すること。

- ✓ 原則として、更新を伴う主伐の素材生産請負事業は、一貫作業システムで発注。
- ✓ 一貫作業システムでは、全てコンテナ苗を使用。

※立木販売の場合には、伐採・搬出が終了した時期に応じて、年度内の植付が可能であれば地拵を省略しコンテナ苗を植栽している。

6

初期費用の削減に向けた取組

植栽本数の削減

- ✓ 基本的な植栽本数を、3,000本/haから概ね2,000本/haに削減。

生産目標の変化

低密度植栽試験地での検証（成長・形質問題なし）

管理経営の指針、造林方針書を改訂（H15）

植栽本数3千本/haから概ね2千本/haに削減

植栽本数密度による林分構造変化及び材質試験地（広島署管内 新元重山国有林）



2,000本/ha区



3,000本/ha区

・苗木代

1/3削減

・植付人件費

1/3削減

7

下刈の省略

下刈の省略

従来の下刈作業の標準表

植栽樹種	作業種	経過年数									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
スギ	下刈	●	●	●	●	●					
ヒノキ		●	●	●	●	●					
							200千円/ha×5回				
							合計1,000千円/ha				

現在の下刈作業の標準表

植栽樹種	作業種	経過年数									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
スギ	下刈		●	●	●	●					
ヒノキ			●	●	●	●					
							200千円/ha×3回				
							合計600千円/ha				

※管内の代表樹種2種を記載

※下刈の実施年を●、基本省略とするが植生の状況により判断を●。

400千円/haの削減

- ✓ 下刈の可否を的確に判断し、真に必要な場合のみ下刈を実施。

⇒ 下刈の省略、回数削減

8

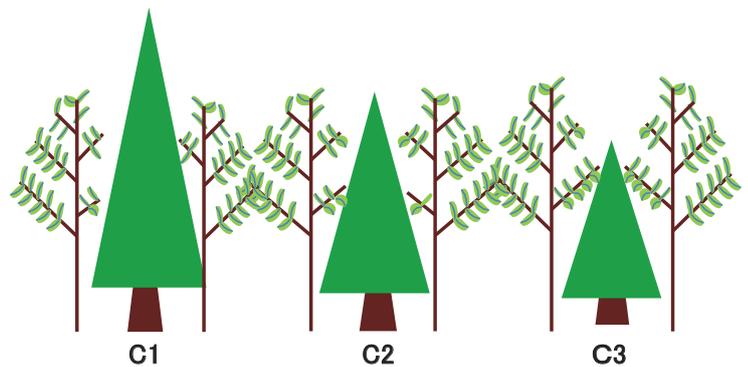
下刈省略の判断

下刈省略の判断



無下刈試験地（植栽後2年）
岡山署管内 三光山国有林

【森林総合研究所関西支所との共同試験】



C1: 植栽木が雑草木を上回る

下刈省略

C2: 植栽木と雑草木が同じ

下刈検討

C3: 雑草木が植栽木を上回る

下刈実施

課題名：伐採・植付一貫作業下でのコンテナ苗等の活着・生育実証

取組の目的

木材需要の高まりによる伐採面積の増加により、再生林の需要も高まってきており、特に低コストで再生林する方法として一貫作業システムによる伐採後の速やかな植栽が有効と考えられており、それに対応するための植栽作業も通年で実施する必要が生じている。ここでは、近畿中国地域で多いヒノキの通年植栽の実行性を検証するため、三つの異なる季節に植栽する試験を実施し苗木の活着と成長を比較しています。

取組の内容

場 所：岡山県新見市 三光山国有林 591り2林小班 三室国有林 702ら林小班

地 況：三光山 傾斜：中、地質：斑岩、土壌：B I D、向き：南西 標高：600～770m

三 室 傾斜：中、地質：斑岩、土壌：B D、向き：北 標高：790～900m

- 内 容：①コンテナ苗等の植栽工期、活着状況、成長量の調査
 ②調査結果を踏まえた造林（地拵・植付・下刈）のトータルコストの削減を目指す造林技術の提案
 ③広域的な植栽工期調査や活着状況を踏まえて、コンテナ苗等の造林手法の改良を推進
 ④成果の公表、コンテナ苗の特性、立地条件等を踏まえた民有林経営への普及



経 過： 三光山国有林では平成25年～26年(2013～2014)に伐採後2～3年経過した皆伐跡地にスギ、ヒノキのコンテナ苗、普通苗を植栽。

三室国有林では平成25年～26年(2013～2014)に伐採直後の皆伐跡地にヒノキのコンテナ苗、普通苗を植栽（一貫作業システム）植栽。

時期を春植え(5月)夏植え(8月)秋植え(10月)とし、下刈り回数についても毎年刈り、隔年刈り、無下刈りの区域を設定し、植栽後の生育状況を比較。

試験区域ごとの下刈り頻度の違い

	植栽	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
隔年下刈り(三光山)	実施		下刈り		下刈り	
毎年下刈り(三光山)	実施	下刈り	下刈り	下刈り	下刈り	
無下刈り(三光山)	実施					
一貫作業(三室)	実施				下刈り	



三室国有林植栽時の植生状況



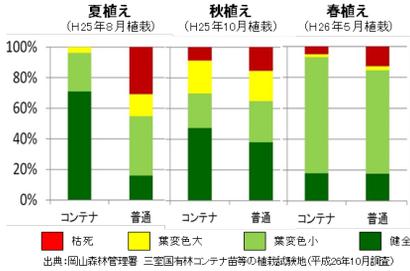
三室国有林3年目の生育状況（無下刈り）

○コンテナ苗の活着・成長

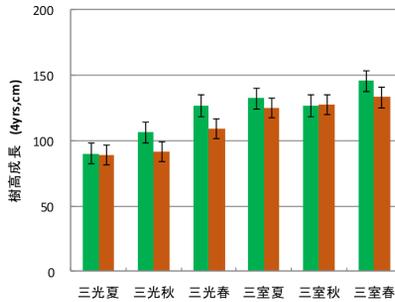
- ・コンテナ苗の活着は、どの季節でも普通苗に比べて良好であった。
- ・成長量は、どの季節においてもコンテナ苗、普通苗に大きな差はなく良好に成長している。一貫作業(三室)の方がやや成長が良い。

季節別コンテナ苗と普通苗の植栽試験

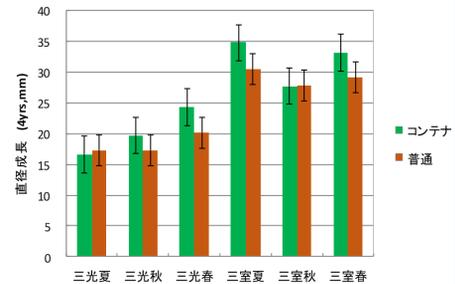
コンテナ苗と普通苗の活着率の比較試験



植栽苗木の樹高成長 (4成長期)



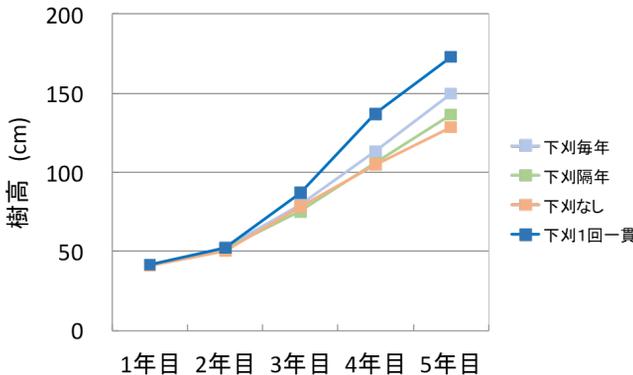
植栽苗木の直径成長 (4成長期)



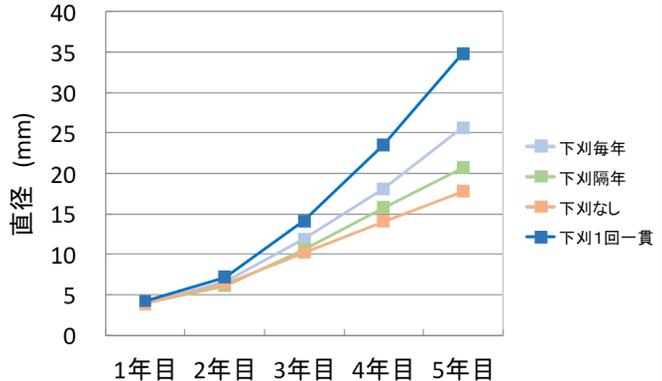
○下刈り頻度に応じた成長経過

- ・一貫作業での樹高及び直径成長が大きく、下刈り回数の違い(三光山国有林)では毎年下刈りが樹高及び直径成長が最も大きい。
- ・伐採後早期に植栽することで、植栽木と下層植生との競合する期間が短縮され、下刈り回数を減らすことが可能となる。
- ・伐採と植栽時期を選ばないコンテナ苗とを組み合わせ、伐採直後に植栽することで地拵えと下刈り回数の削減が可能となる。

下刈り頻度と苗木樹高の成長経過



下刈り頻度と苗木直径の成長経過



資料提供 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 奥田史郎氏

三室国有林の現状

- ・コンテナ苗、普通苗ともに収穫予想表兵庫・岡山地域の1等地を上回る成長をみせている。
- ・樹高はコンテナ苗が普通苗より成長が良い(有意差(P<0.05)が認められる)。

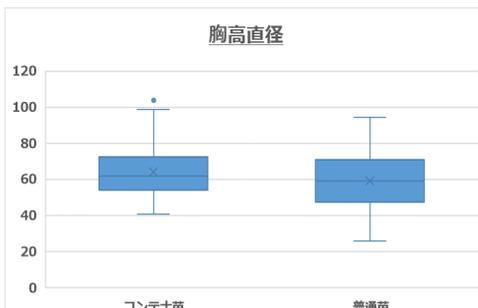
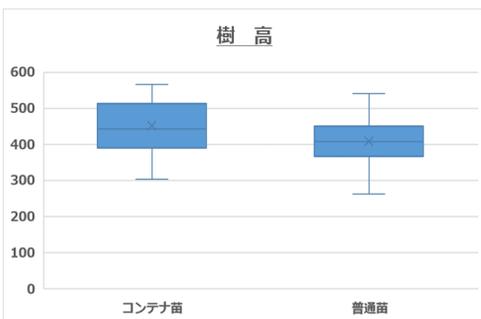
収穫予想表 兵庫・岡山 ヒノキ(10年生)

区分	1等地	2等地	3等地
樹高(cm)	330	250	190
胸高直径(mm)	43	31	20

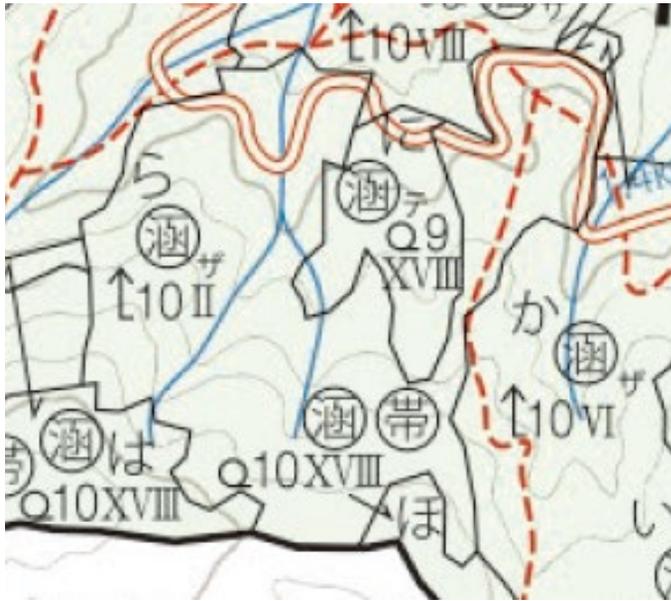
10年目の成育状況

区分	コンテナ苗	普通苗
樹高(cm)	452	409
胸高直径(mm)	64.22	59.24

※コンテナ苗及び普通苗ともに46本調査

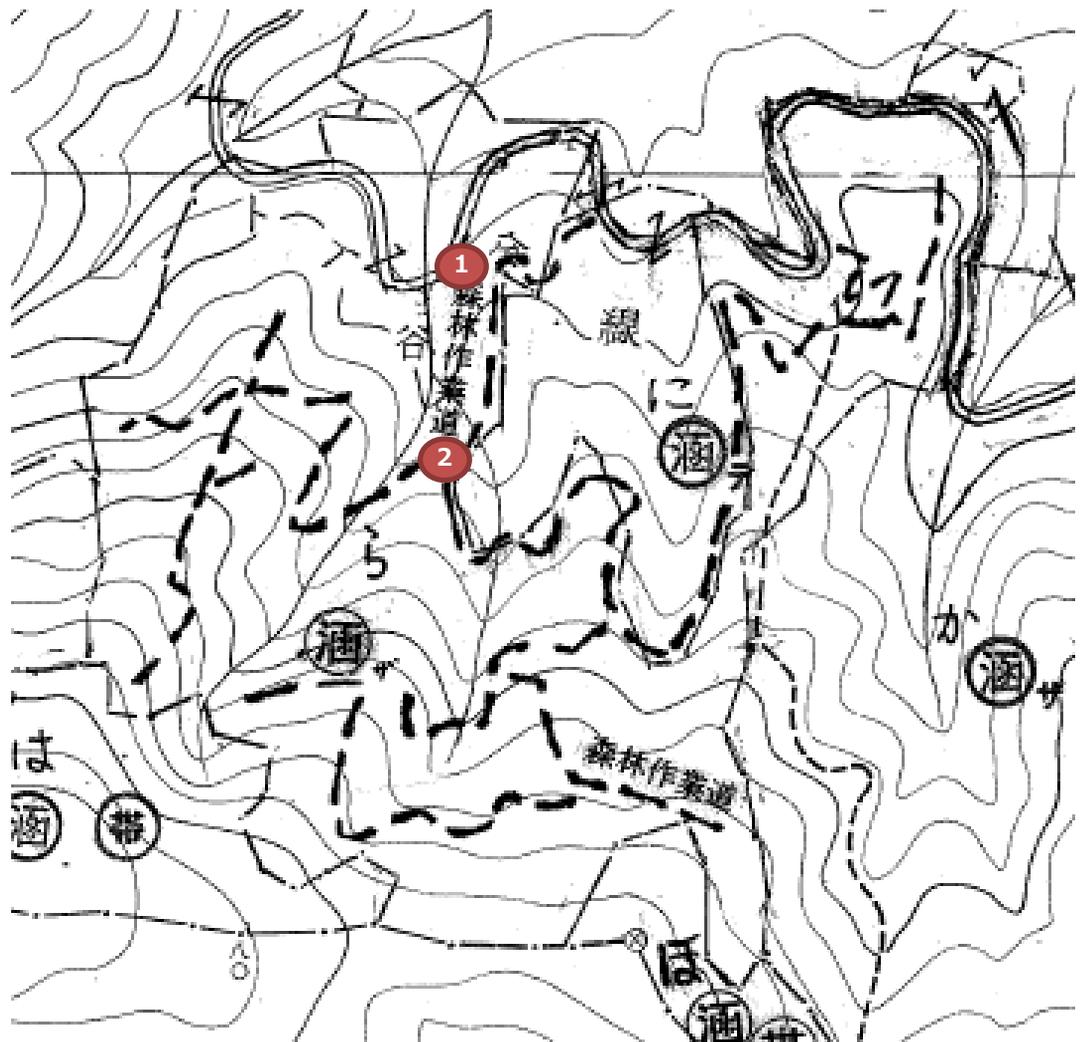


コンテナ苗の成育状況



三室国有林

702ら林小班



三室国有林 702ら林小班



青字は計画当初の試験を記載しており、実際は4年目に下刈りを1回実施。

アニマルネット等を活用したシカ防護柵低コスト化の取組み

背景

主伐・再生林を進めていく中で、シカの増加による新植苗木への被害が深刻になっており、防護柵を設置し被害を防ぐことが必要。再生林の低コスト化を進める上で、より安価な防護柵の設置が課題。

アニマルネットの活用

○一般的な防護柵

シカによる網の噛み切りを防ぐため、侵入防止網にステンレスが編み込まれたものを使用しているが、高価で重い。



○侵入防護網にアニマルネットを使用。

- ・目合いが細かく（16mm）、動物の口が入りにくいため、噛み切ることが困難
- ・ウサギ等小動物のすり抜け防止になる
- ・ホームセンター等で購入可能であり、入手が容易でかつ安価

ステンレス入りネット 32,200円/50m

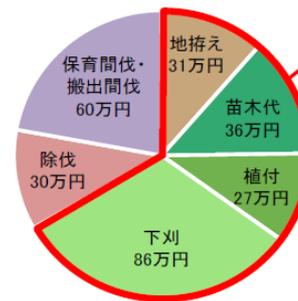
アニマルネット 4,400円/50m

- ・軽いので運搬工程も有利

ステンレス入りネット 11kg/50m

アニマルネット 5.5kg/50m

再生林費用の現状



育林経費のうち造林初期費用は約7割(180万円/ha)

以下の対策を行う場合の初期費用がさらに必要

シカ防護柵	100m当たり18万円
食害対策用 単木チューブ	100本当たり8万円

※林野庁業務資料(R1年標準単価より作成)
スギ3000本/ha植栽、下刈5回、除伐2回、
保育間伐1回、搬出間伐(50~60m³/ha)1回

立木の活用

○支柱を削減し、できるだけ立木を活用する

- ・材料費の縮減

支柱代金：2,000円/本

立木代金

立木価格(1,850円/本)－伐木造材費(1,303本/ha)

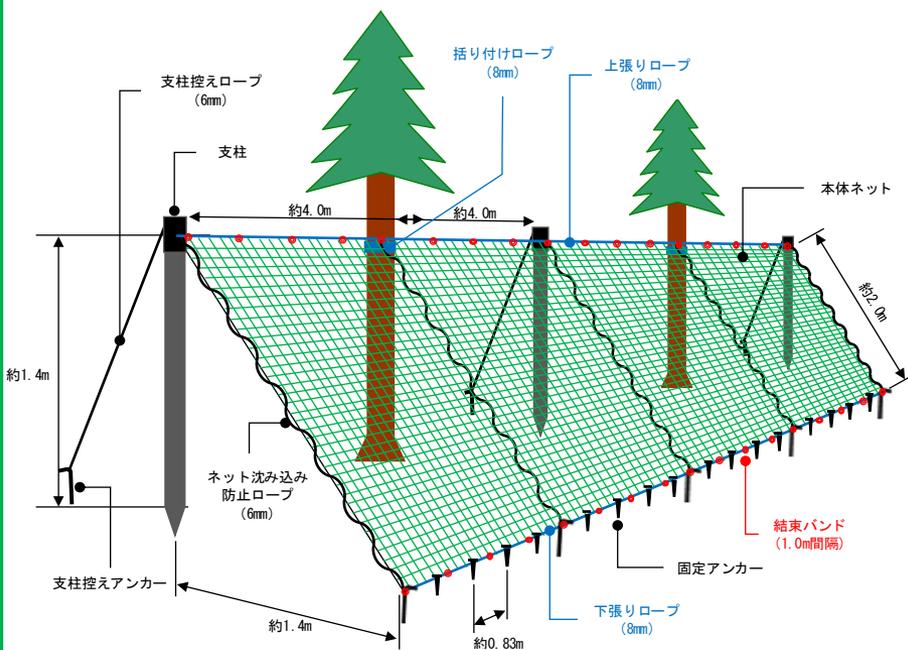
＝1,303円/本

- ・支柱の運搬、打ち込み作業が削減できる
- ・積雪や倒木等に対してより強度がある
- ・破損しても修繕が容易

アニマルネット等を活用したシカ防護柵低コスト化の取組み

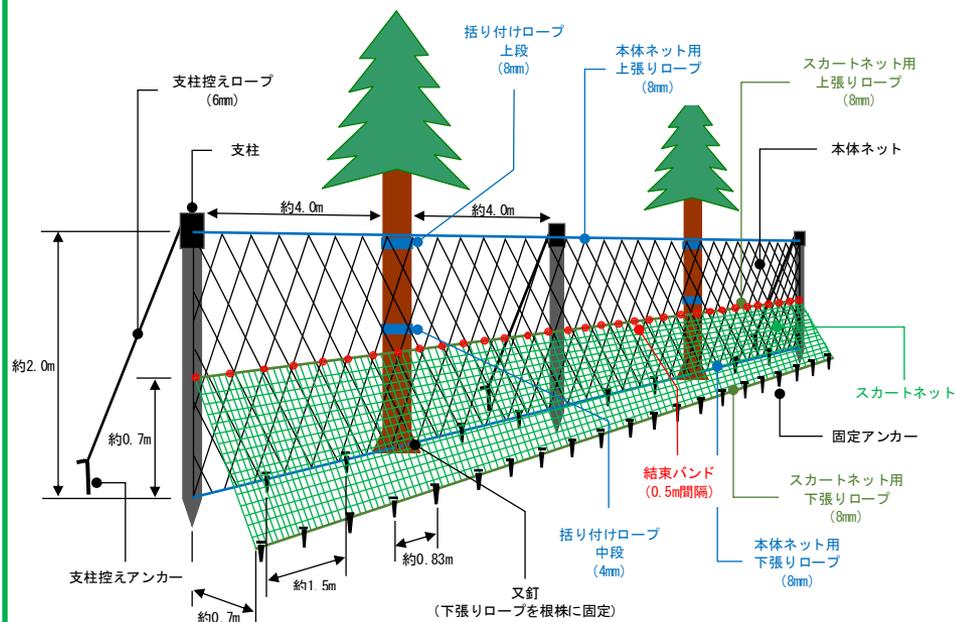
▲ アニマルネットを斜め張りする

【標準図】



▲ アニマルネットをスカートネットとして利用する。

【標準図】



アニマルネット等を活用したシカ防護柵低コスト化の取組み

▲ 防護柵haあたりの設置単価比較試算

	一般的な縦張ステンレス入りネット	アニマルネットを活用
延長	500m/ha	
作業員	普通作業員	18,100円
工期	14.5人工	10人工
(労務費小計)	18,100×14.5 262,450	18,100×10 181,000
支柱	全部支柱 167本 325,483	支柱:3mピッチ、1,949円/本、キャップ215円 1/3立木 支柱111本 216,339
キャップ	167個 35,905	111個 23,865
ネット	ステンレス入り 32,200円/50m 500/50×32,200 322,000	アニマルネット 4,400円/50m 500/50×4,400 44,000
ロープ外	143,606	95,737
(材料費小計)	826,994	379,941
合計	1,089,444	560,941
		差額 528,503

(直接事業費のみ)

(円)

アニマルネットを活用すると約半分の価格で設置が可能

小林式誘引捕獲

～くくり罠を使用した新しい捕獲方法～



林野庁 近畿中国森林管理局

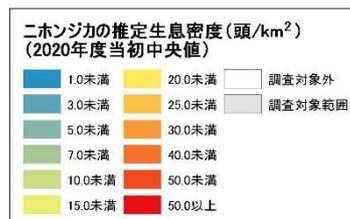
野生鳥獣による被害の現状（シカの生息状況）

- シカの生息分布は1978年以降大きく拡大しており、2014年までの36年間で分布域が約2.5倍に拡大するなど深刻な状況。

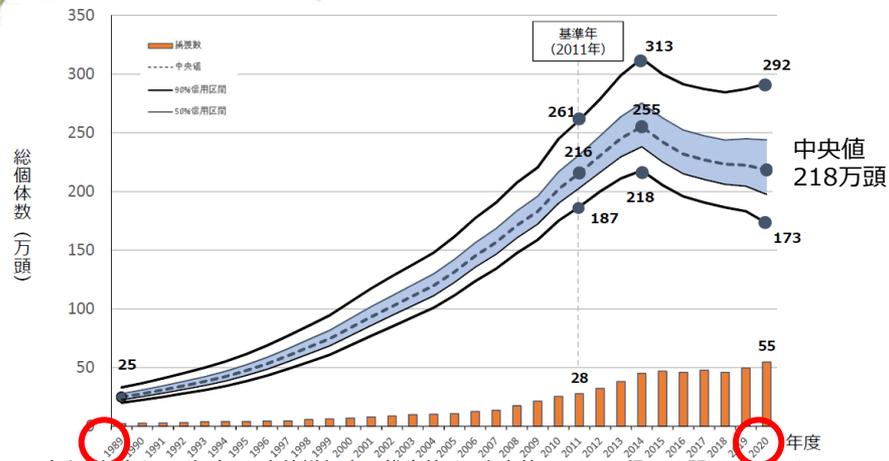
分布状況



密度分布



生息数
(北海道を除く)



- シカの生息数は1989年から2020年までの30年間で約9倍に増加。

2021年度の北海道の推定個体数は約69万頭

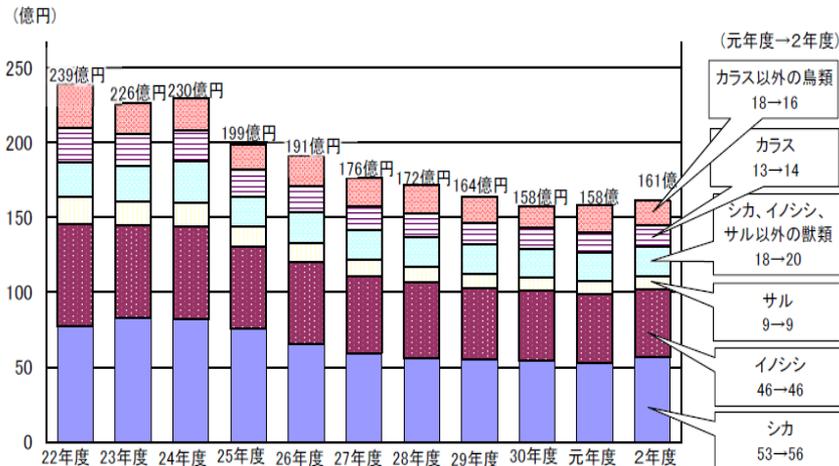
環境省資料

野生鳥獣による被害の現状（農林水産被害の概要）



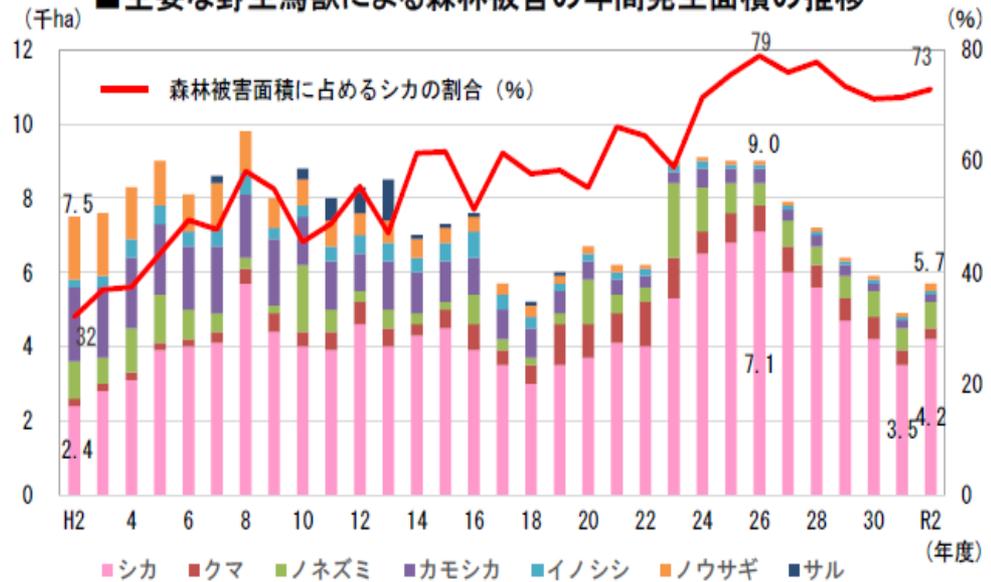
- 野生鳥獣による農作物被害は161億円（令和2年度）。全体の約6割がシカ、イノシシ。
- 森林の被害面積は全国で年間約5700ha（令和2年度）で、このうちシカによる被害が約7割を占める（約4200ha）。
- 鳥獣被害は営農意欲の低下、耕作放棄・離農の増加、さらには森林の下層植生の消失等による土壌流出など、被害額として数字に表れる以上に農山漁村に深刻な影響を及ぼしている。

野生鳥獣による農作物被害金額の推移



出典：全国の野生鳥獣による農作物被害状況について（農林水産省）

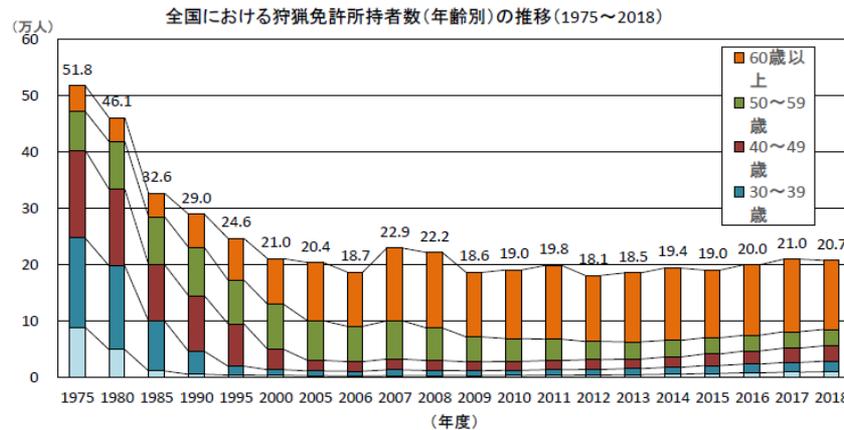
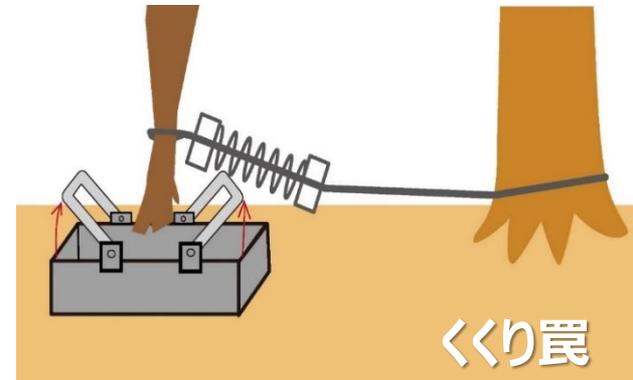
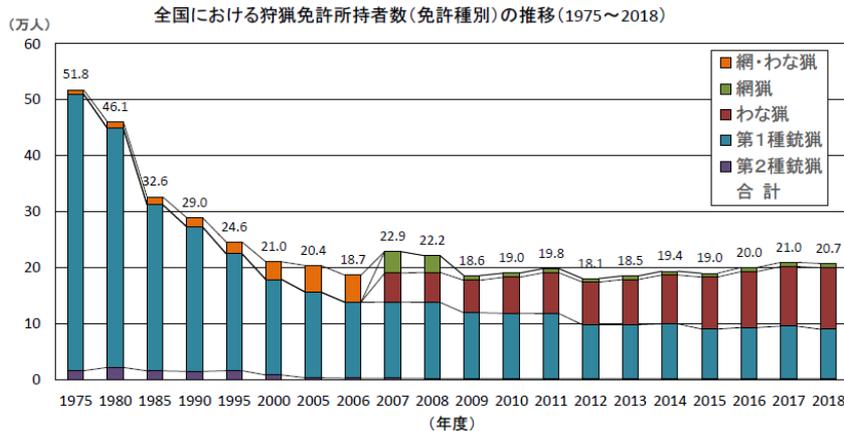
■主要な野生鳥獣による森林被害の年間発生面積の推移



出典：森林・林業統計要覧

小林式誘引捕獲の開発（捕獲手法の検討）

- 柵などの防御のみではシカ対策は難しいことから、簡単で効率の良い捕獲手法の開発に着手
→ 罠や箱罠では捕獲率が悪いことから、**くくり罠による捕獲を検討**
- 狩猟者の減少、高齢化が進むなか、わな猟の免許所持者は増加していることから、**初心者でも簡単かつ効率的に捕獲できるわな猟の手法が求められている。**



小林式誘引捕獲の開発（新たな発想への転換）

従来のくり罠では、経験が必要

初心者は、捕獲効率が悪い

そのため、餌を使って誘き寄せる方法を検討



獣道にくり罠を設置し、その両端に餌を置く工夫

→通常のくり罠より捕獲効率がアップするが、

従来どおり獣道に設置する技術が必要

また、近くにシカが来ても捕獲できないことも多々あり



もっと簡単に捕獲する手法はないか？

→シカの行動を観察



小林式誘引捕獲の開発（シカの行動調査に基づく対策）

餌の食べ方を観察したところ、**食べる際に、口元の横に前足を置く習性**があることが判明。



くくり罠の周りにドーナツ状に餌をまくことで、簡単に捕獲が出来るのではないか？

ただし、くくり罠は踏み板の端を踏まれると、空はじき[※]が発生し、スマートディア[※]となる。

→その後の捕獲が難しくなるため、対策が必要。

また、誘引に適した餌の選定が必要。



獣道を観察したところ、石などの障害物を避けて歩くことが分かり、この習性を利用して、罠の周囲に石を隙間なく並べることで、空はじきを大幅に抑制できることが判明。



（用語解説）

※空はじき：くくり罠は作動するが捕獲できないこと

※スマートディア：警戒心が高く罠にかかりにくくなったシカ

小林式誘引捕獲の開発（餌の選定）

- シカのみ捕獲する際は、ハイキューブが良い（シカが好む餌であり、錯誤捕獲のリスクが非常に少ない）
- イノシシも同時に捕獲する場合は、米ぬか、おからサイレージ等が良い



ハイキューブ◎



ふすま○



ビール搾り粕×



おから○



おからサイレージ◎



麦茶搾り粕×



米ぬか◎



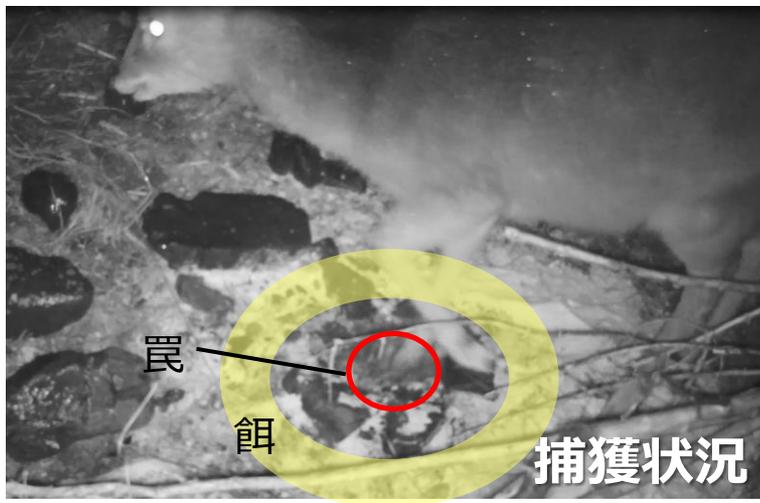
みかん搾り粕○



配合飼料×

小林式誘引捕獲のメリット（罠の設置はどこでもOK!）

- 獣道以外でも良く捕れる。また、1箇所複数の罠を設置することで、同時捕獲も可能。



小林式誘引捕獲のメリット（労力軽減！安全！簡単！コスト減）

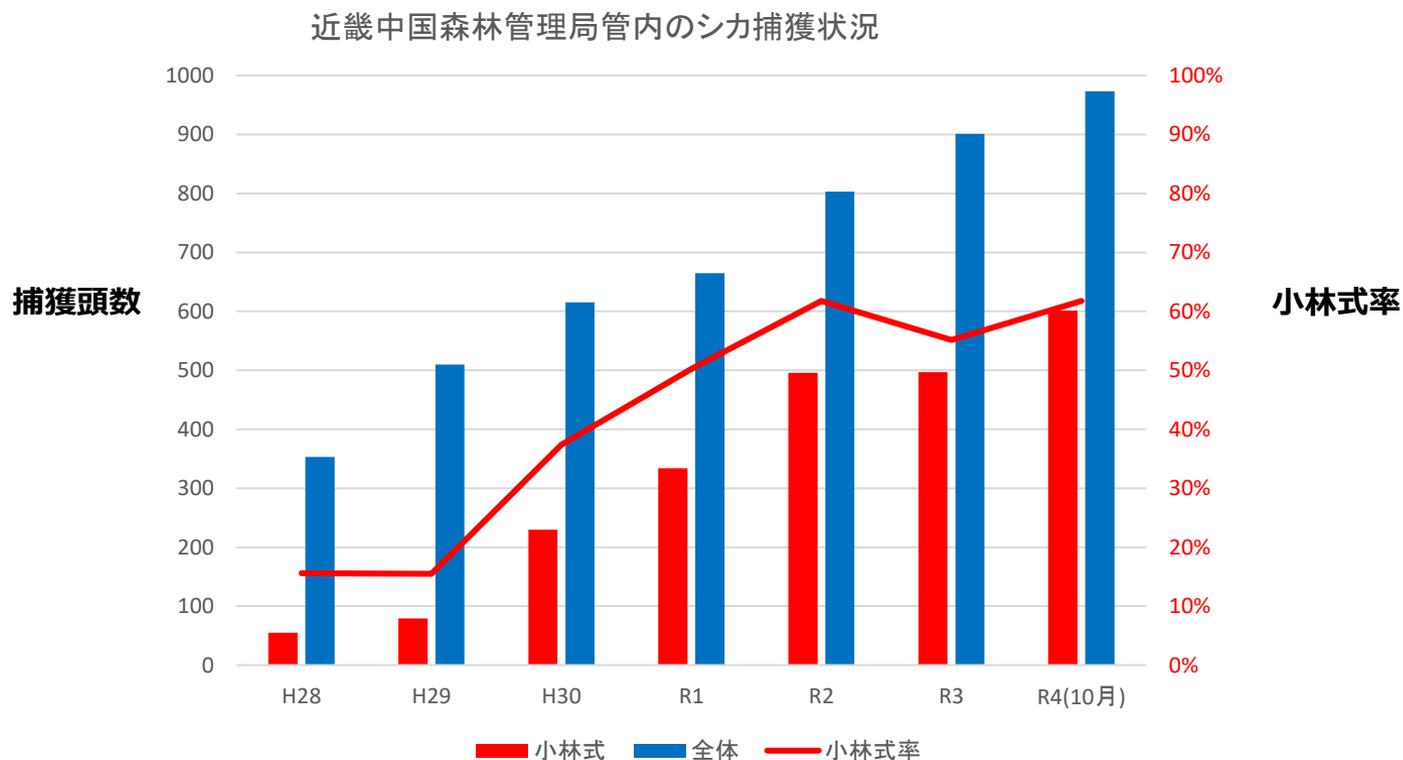
- 道沿いに設置することで見回りや個体処理が容易。
- 車の中から捕獲状況を確認できるため安全。
- 獣道を見極める必要がないことから、初心者でも簡単。
- 獣道へ設置する場合は、状況次第では1基あたり30分程度必要であったが、小林式誘引捕獲は、場所を見極める必要がないことから、1基あたり5～6分程度で設置可能。
- 短期集中で捕獲できることから、見回り等のコスト縮減が可能。



近畿中国森林管理局管内のシカ捕獲状況

令和4年度では、10月時点で局全体の捕獲頭数のうち約6割の約600頭を小林式誘引捕獲により捕獲。

小林式誘引捕獲の導入に伴い年々捕獲数が増加。



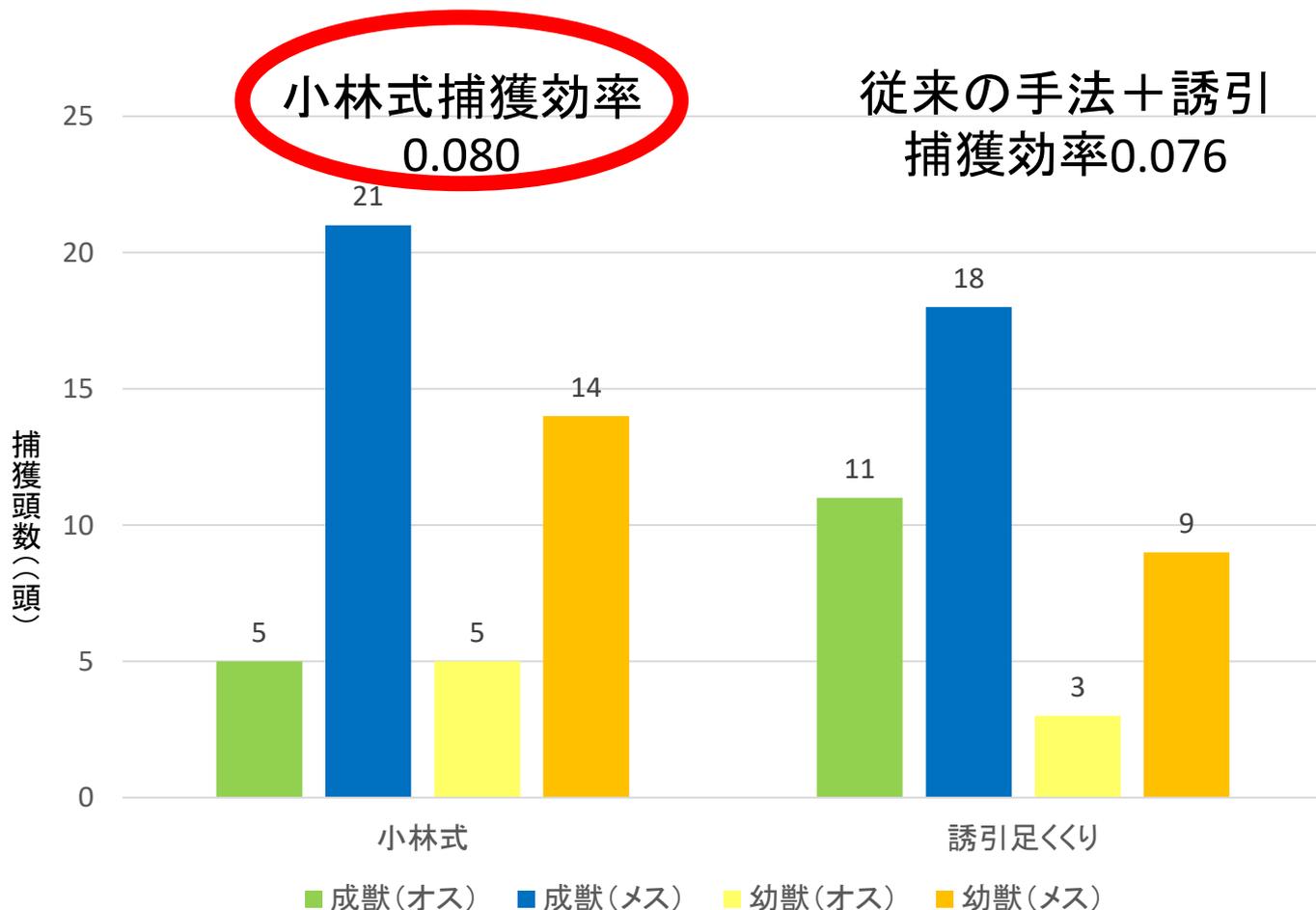
小林式誘引捕獲の展開、普及等の実績

兵庫署の事例（委託事業）

小林式誘引捕獲の捕獲効率は、ベテラン猟師が従来の手法（獣道に罠を設置）と餌による誘引を組み合わせる捕獲した場合をわずかながら上回ることを確認。

令和元年度鶏籠山外国有林
（兵庫署）
2月12日～3月10日（28日）
平均39基の罠を設置
全体で86頭のシカを捕獲
（全体の捕獲効率0.080）

小林式誘引捕獲により
28日間で45頭捕獲



小林式誘引捕獲の展開、普及等の実績

奈良県の事例

- 「地域で取り組む獣害対策」に「小林式誘引捕獲法」を紹介
- 「シカによる森林被害緊急対策事業（林野庁）」では、小林式誘引捕獲に取り組んだ3年目に**捕獲効率が約5倍にアップ**

3. シカ誘引捕獲法の紹介(くくりわな) —小林式誘引捕獲法—

捕獲効率の比較(事例紹介)

奈良県内で「シカによる森林被害緊急対策事業(林野庁)」を活用し、平成28年度から平成30年度の3年間、野迫川村で実施したシカ捕獲モデル事業の捕獲結果は下表のとおりでした。「小林式誘引捕獲法+わなの移設」によって、捕獲効率が大幅に上昇しました。

年度	捕獲方法	捕獲期間	捕獲頭数	捕獲効率 (頭/基数×日数)	備考
H28	箱わな(檻):2基 くくりわな:22基 (獣道に設置)	45日間 (10月、 12月~1月)	11頭	0.012	クマ人身事故により事業を一時中断し捕獲時期が冬季に。積雪によるわな不動により捕獲数が低迷。
H29	くくりわな:40基 (餌の周囲にわな設置)	46日間 (10月 ~12月)	17頭	0.009	誘引により前半は順調に捕獲が進むが警戒心の高まりに伴い、捕獲数が低迷。
H30	くくりわな:20基 (小林式誘引捕獲法+わなの移設)	30日間 (11月 ~12月)	30頭	0.050	小林式誘引捕獲法と警戒心の高まり対策として実施したわな移設が功を奏し、捕獲頭数が増加。



平成28、29年度事業のわな設置状況
(箱わな、くくりわな)

平成30年度事業のわな設置状況
(小林式誘引捕獲法)
※餌はヘイキューブを使用

短期集中 1週間捕獲プログラムの事例

1. 捕獲ポイントの選定
1日目

2. 給餌・・・ポイント選定と同時
1日目（獲物が多い箇所はわな設置）

3. 採食状況の確認・・・給餌翌日
2日目

4. わな設置（捕獲）・・・採食状況確認と同時
2日目～

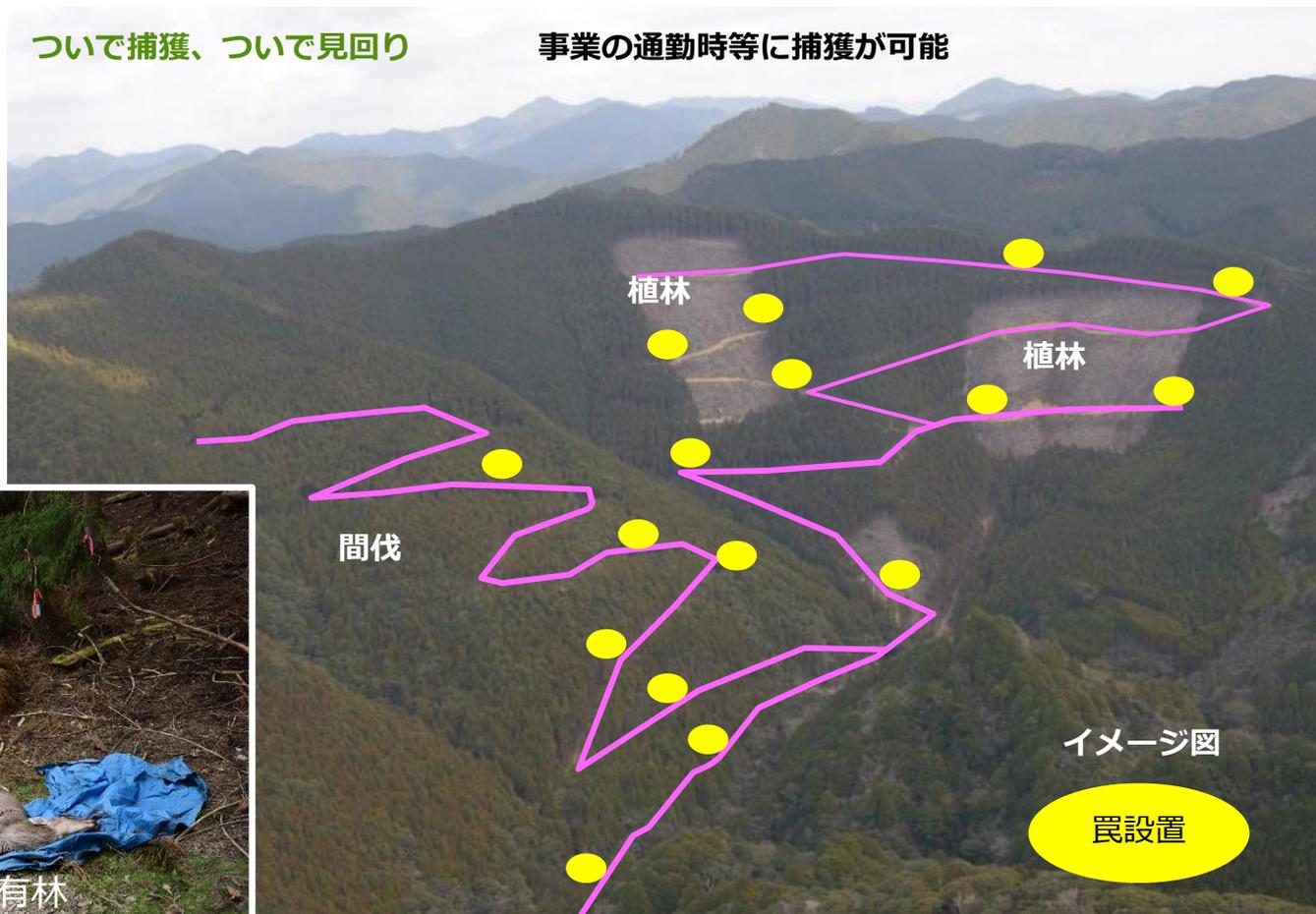
5. 見回り・止めさし・・・わな設置翌日から1週間程度連続
（獲物が捕れなくなるまで設置）

小林式誘引捕獲の活用事例

ついで捕獲、ついで見回り

山林作業や農作業等の通勤途中で簡単に捕獲が可能であるため、仕事のついでに捕獲等が可能。見回りの省力化も図れることから、従来より効率良く捕獲することが期待される。

令和4年10月末時点
41頭捕獲



錯誤捕獲対策

けもの道を避けて小林式誘引捕獲を実施 + ハイキューブ



シカを選択的に捕獲でき、クマなどの
の錯誤捕獲を防ぐ

荷重調整方法



罠の荷重調整 10 kg以上にすることで、中型獣の錯誤を防ぐ

小林式誘引捕獲 まとめ

1. わな設置場所の効率化

小林式誘引捕獲では、餌で誘引するため、従来と異なり、道沿線の設置しやすい場所に限定した捕獲が可能となった。また、餌によって捕獲対象を選択することが可能。

2. わな設置技術を問わず、捕獲効率も向上

従来のくくり罠による捕獲は、経験や高い技術が必要であったが、小林式誘引捕獲は、餌で誘引し、設置が簡単なため、初心者でも設置でき、捕獲効率も高いことが特徴。

3. 安全性の向上

道沿いに限定して設置できることから、車の中から捕獲の状況が把握できるので安全。特にクマやイノシシとの接近遭遇を防ぐことが容易。

4. 見回り、止めさしの労力軽減

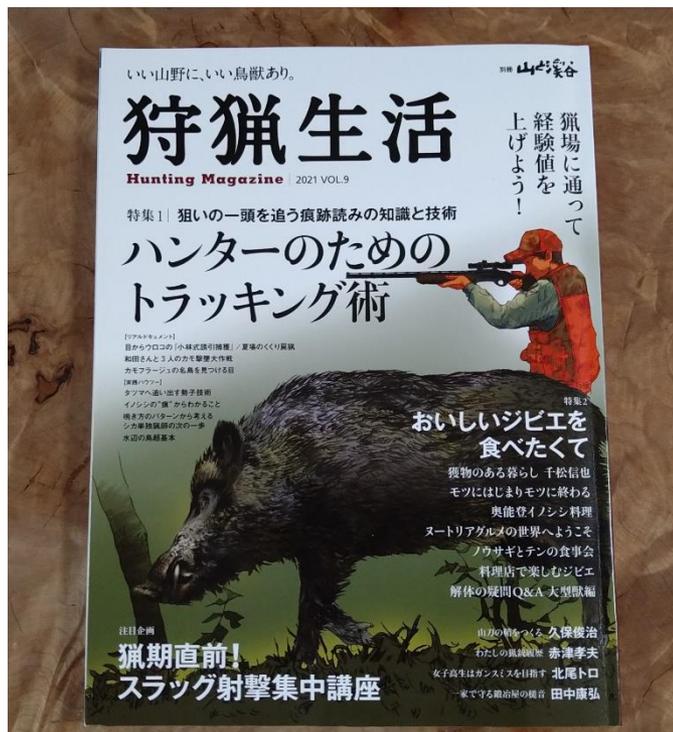
これまでは、見回り作業に大きな労力が必要であったが、道沿いに限定して設置することで、見回りや止めさし、個体運搬の労力を大幅に軽減できる。

5. 低コスト化

小林式誘引捕獲は、誘引できれば高い確率で捕獲できるため、捕獲する日を予め設定することが可能。短期集中で捕獲することにより、トータルコストの抑制が可能。

小林式誘引捕獲の展開、普及等

ムック本（狩猟生活2021VOL.9）にて巻頭10ページで紹介される



小林式誘引捕獲の展開、普及等

一般の狩猟者がYouTube等で多数紹介



令和3年11月～
令和4年2月まで
の期間でシカを
約40頭捕獲



近畿中国森林管理局HPに掲載中

森林管理局へようこそ 報道・広報 森林管理局の仕事 公衆・入札情報等 リンク集

逆引き事典から探す キーワードから探す Google 検索 検索

注目情報

- 一般競争入札について更新しました (令和3年10月20日) **New**
- 令和3年度 森林・林業交流研究発表会の開催について(技術普及課) (令和3年10月19日) **New**
- 2021年度林野庁森林管理局選考採用試験(事務系)の募集案内 (10月22日より募集開始) を掲載しました(総務課) (令和3年10月14日) **New**

キーワード

- 災害関連情報
- 山の日
- レクリエーションの森
- 水都おおさか森林(もり)の市
- 森林(もり)のギャラリー
- 技術開発
- フォレストの活動状況
- 生物多様性の保全
- 森林・林業の再生に向けた取組み
- シカ被害対策**
- 森林(もり)への誘い
- 国有林への入林
- 事業者の方へ
- 境界確認(証明)申請等
- 分収自給

現地検討会 動画一覧 **New** 森林資源管理のみらいチャレンジ研究会 **New**

シカ被害対策
をクリック



森林管理局へようこそ	報道・広報	森林管理局の仕事	公衆・入札情報等	リンク集
ホーム	政策情報	森林管理局の仕事	森林を育てよう	シカ被害対策

シカ被害対策

1.シカ被害対策の取組状況

近畿中国森林管理局管内では、シカによる、スギ・ヒノキ等の苗木の食害、樹皮剥ぎ、下層植生への影響など森林被害が顕著化しています。
このため、シカによる森林被害対策に取り組んでいるところです。【シカによる森林被害】

シカ被害対策の取組について(PDF: 5,084KB) **New!** (2022年)

シカ捕獲等の現地検討会(2021年)、シカ被害防護対策現地検討会(2017年)

新たな捕獲技術(小林式誘引捕獲)について **New!**

- 小林式誘引捕獲リーフレット(2022.7ver)(PDF: 2,982KB) **New!**
- 小林式誘引捕獲の実演動画(02時20分からになります) **New!**



YouTubeでも解説
しています。



ノウサギN型誘引捕獲罾

取組の目的

ノウサギによる森林被害が全国的に増加傾向にあり、新見市の鳥獣被害防止計画においてもノウサギは対象鳥獣に指定されている。当センターが管理しているコウヨウザンの試験地においても、コウヨウザン苗の9割がノウサギの食害を受けたところであり、今後は防護対策だけでなく、捕獲等による新たな対策を検討することが急務となっている。

このような現状に鑑み、ノウサギ専用罾「ノウサギN型誘引捕獲罾」を試験的に設置し、効果的な捕獲方法について調査を行っている。

取組の内容

場 所：岡山県新見市 赤滝国有林526に1林小班（コウヨウザン試験地）

内 容：ノウサギN型誘引捕獲罾を2箇所設置し、当該罾の近傍に定点カメラを2箇所ずつ設置

運 用：罾の見回りを定期的に行い、ノウサギの捕獲ができた場合、猟友会へ殺処分を依頼

期 間：令和4年10月中旬～令和4年12月中旬

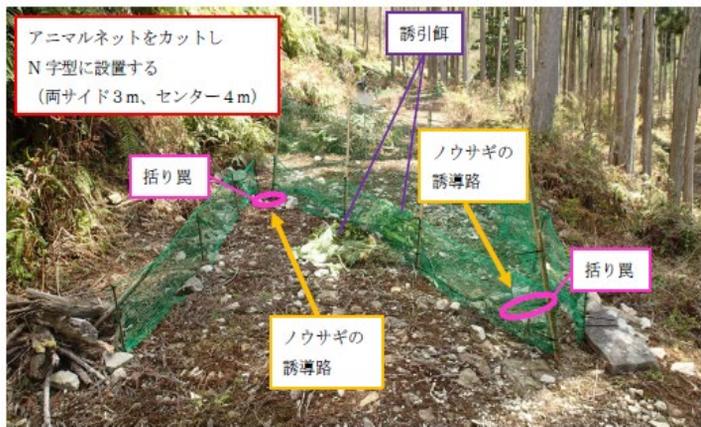
捕獲の仕組み

1. ノウサギが好む餌を散布し、ノウサギを誘引する。

（※調査の結果、クズ、カラスザンショウ、ネムノキの嗜好性が強く、誘引餌として適している。）

2. ノウサギが狭いところを通りやすい習性を利用して、1の餌で誘引したノウサギを、括り罾の取付位置（N型罾の狭窄部分）へ誘導し、捕獲する。

罾の仕様



位置図



※ノウサギは写っていたが捕獲には至っていない。